

人権・同和教育だより

トランスジェンダーとして伝えたいこと

7月6日(火) 2021年度人権講演会

多様な性を知り、より自分らしく生きる ～トランスジェンダーとして伝えたいこと～



高野 晶 (たかの あき) さん

高野さんは、デザイン会社勤務からエステティシャンに転身された2003年から、セクシュアルマイノリティ(性的少数者)のサポートグループ「プライド香川」で、性同一性障害の当事者として社会的な活動を始められました。

2009年には日本で性別適合手術を受け、高松市で初めて戸籍の性別を男性から女性に変更し、女性としての生活をより確かなものとされました。

現在は、医療の場で美のアドバイザーとして活躍するかたわら、「トランスジェンダー・アクティビスト」として、香川県内外の学校や行政機関、企業などで性同一性障害やLGBT・セクシュアルマイノリティについての理解を広めるための講演活動などを続けておられます。

自分の生き方や「自分らしさ」に関わるような「性」のあり方を「セクシュアリティ」といいます。①身体性の性(生物学的な性の区別)、②心の性・性自認(心の性が女性・男性いずれかであるという認識のことだが、はっきりと区別されないこともある)、③社会的性(社会的・文化的に決定づけられる男女の差異)、④性的指向(性的欲求や恋愛感情の対象が異性・同性のどちらに向いているか)の4要素が組み合わさり、多様なあり方が存在しています。言うまでもなく、どのようなセクシュアリティも「自分自身」のものであります。

LGBTとは、女性の同性愛者「レズビアン(lesbian)」、男性の同性愛者「ゲイ(gay)」、男性と女性の両方に性的指向が向く「バイセクシュアル(bisexual)」、"心の性"と"身体の性"が一致していない人「トランスジェンダー(transgender)」の頭文字を組み合わせた言葉です。多数派と少数派の違いがあったとしても、LGBTも多様なセクシュアリティの一部であり、決して不自然なことでもなく、特別なことでもありません。

高野さんは今回の講演で、多様な性について、私たちにたいへん分かりやすく説明してくださいました。

さらに高野さんは、セクシュアルマイノリティとして生きる中で実際に体験し、感じてこられた「生きづらさ」について、私たちに語ってくださいました。高野さんのお話を聴くなかで、「LGBTの人たちを苦しめるものはセクシュアリティではなく、「当たり前」という意識からめとられた世間なのだ」ということを痛感しました。自らの命を絶とうと考えるほど悩み、苦しみ、迷ってきた人生。そんな高野さんの「生きづらさ」を理解し、トランスジェンダーであることを「自分らしさ」として受けとめてくれた人たちとの出会いが、高野さんの人生を変えていきました。高野さんの前向きな生き方とメッセージに、私たちは心を震わされ、そして勇気と元気をいただくことができました。

誰もが自分らしく生きることのできる社会のことを、共生社会といいます。そんな社会づくりに向けて、たとえ一人ひとりの力は小さくとも、私たちにできることが何か必ずあります。一人の百歩より、百人の一步前進に向けて、ともに歩みましょう。

今回の講演会を聞いて生徒が寄せてくれた感想文を、ほんの一部ですが紹介します。

- ・一番心に響いたのは、「男の子の着ぐるみを着ている女の子」という言葉です。見た目は男性だけど、中身は女性。トイレに行くのもつらくて、男性として扱われるのもつらい。でも、親友の存在で何とか乗り越えられて、最初にカミングアウトしたのも親友。親友の存在の大切さをしみじみと感じました。
- ・私も「男らしく」「女らしく」という言葉は嫌いで、その言葉を聞くたびにモヤモヤしていました。高野さんはこれまでたくさん迷って苦しんだと思いますが、そのなかでも「自分はこうありたい」という思いを貫いてきたのだと思います。自分と向き合い、「自分らしさ」を求め続けている高野さんをととても尊敬します。
- ・高野さんのお話が、すごく心にしみました。私は今後、高野さんを同じ女性として応援します。もしカミングアウトしてくれたら、勇気をもってそうしてくれたことをしっかりと考え、話を聴いたり相談にのったり、(セクシャルマイノリティの人たちが)生き生きと過ごせるようにしていきたいです。
- ・高野さんと初めてお会いして、自分の経験をみんなに伝えようと話している姿が、本当に素敵でした。私はLGBTの人たちを差別するようなことは、絶対にしません。
- ・今回の講演を聞いて「自分らしくしていいんだ」「胸を張ってこの社会に生きていいんだ」と思えるようになりました。自分の好きなことを職業にして、それを誇りとできている高野さんの生き方はとてもカッコいいです。私も自分を誇れるような人になりたいと思います。



講演会を運営した人権フォーラム琴平(JFK)メンバーと高野さん

1学期人権・同和教育LHR

(学習内容の紹介)

1年：①よい人間関係を育てよう ②ネットいじめに向き合う

①では、一人ひとりが充実した学校生活を送るためのヒントとして、望ましい人間関係について考えました。事例をとおした「いじめ問題」に関する学習を中心に、他人の痛みに対する想像力を養うことの大切さを学びました。②では、DVDを視聴しながら、ネットトラブルの解決に向けての方法について具体的に考えました。

2年：同和問題に向き合う

同和問題学習のスタートとして、1時限目は被差別部落の歴史について学びました。2時限目は部落差別の問題に向き合ってきた若者の姿を紹介するDVDを視聴しながら、私たち一人ひとりが同和問題について正しい知識をもつことが、まずは不合理な差別をなくしていくための第一歩であることを学びました。

3年：差別と闘う人間になるために(就職差別の問題)

2006年度の本校卒業生が制作したDVD『就職差別について』などを用い、面接試験での質問のうち「就職差別につながるおそれのある12項目」(応募者の適性・能力に関係のない事柄)について知りました。そして、その対応(「学校の指導でお答えできません」と返事をする)についても確認しました。こうした対応をとることが、差別をなくすために私たちにできる具体的な行動の一つであることを知るとともに、同和問題の解決が私たち一人ひとりの問題であることを理解しました。